



くさばな しんぶん

2020年8月号

2020（令和2）年
7月31日発行
通算第292号

【いま私たちはどこにいるのか — 先の見えない厳しい日々の中で】

カレンダーはいつのまにか7月の終了を告げるようになりました。例年ならばとくに夏休みの日々なのですが、夏休みは明日からという変則的な1学期となりました。

緊急事態宣言が解除され、やれやれと思っていたら7月後半からまた感染者が増えています。一体、いま私たちは感染症の流行の中でどのあたりにいるのでしょうか。自分たちの立っている場所がどのポイントなのか。さらなる大流行の始まりの地点にいるのか、それとも安定的な漸次収まっていく過程の中にいるのか、そこが全く分からず、そのことが心の中の不安をかき立てます。

また近隣の市町村の中では、あきる野市はなぜか一番感染者数が多く、その理由が分かりません。都内や多摩地区の幼稚園・保育園で感染者が出ており、その波が私たちの足元を洗い始めている恐れを感じます。

今の幼稚園・保育園の制度では、保育中の「密」を完全に防ぐことは難しい状況です。これは私の持論でもあるのですが、先進国の中で、日本は保育者一人当たりの乳幼児数が多く、子どもの育ちを保障するためには基準を改める必要があります。1園当たりの必要な保育者数はその園の年令別在籍児童数から算出されます。その基準は、3歳児は20名に保育者1名、4・5歳児は30名に1人です。実際にはそれでは保育が成り立ちませんから、やりくりしながら必要な保育者を投入しているのが実情です。昨年10月から保育の無償化が実施されましたが、保育現場からは無償化よりも基準の改善して保育者数を充実するほうが大事だという意見もあったのです。どちらが長い目で見て乳幼児のためになるか。私は一定の限りある財源しかないのならば、保育環境の充実という選択はあって然るべきだったと思います。こんどのコロナ騒ぎで、文科省や厚生省は幼稚園・保育園も社会的インフラの役目を負う教育機関であり施設だということを事実上示したと思います。しかし、園を運営する側からすると、保育者一人当たりの人数が上に書いた基準のままで「3密」を防ぎながら保育をせよ、というのはとても厳しいことです。

とはいってももちろん私たちは目の前の自らの任務を果たして行かなければなりません。園内各所の毎日の消毒など今までに必要ななかった業務をこなしつつ、神経を使い不安を抱えながら。それでも本来業務の保育の中身は充実したものとなるよう創意工夫をしつつ。これは私からのお願いですが、どうぞ保護者のみなさまから、こうした状況の中で保育に当たる職員に対し、励ましの言葉をかけていただけたら幸いです。みなさまのひと言が元氣と勇氣を与えてくれると思います。

理事長 山城 清邦



「1学期が終了しました」

本日を持ちまして1学期が終了いたしました。2か月というとても短い1学期でしたが、お子さまとともに過ごす楽しさ、喜びを

改めて感じることができた1学期でした。お子さまたちは、マスクをしたり、手洗いや消毒をいつも以上に行ったり、友だちとの距離

を考えながら過ごしたりと、これまでの幼稚園での生活では無かった事柄をしっかりと受け入れ、予防に取り組みながらも園生活を楽

しく過ごしていたように思います。保護者の皆さまにおかれましては、日々の送迎時や、その他様々な場面でご協力いただき、ありが

とございました。皆さまのご協力により、園児、職員共に罹患者が出ることなく今日の日を無事に迎えることができ、安堵しており

ます。明日から夏休みとなりますが、引き続き感染予防に努めながら、それぞれのご家庭で思い出深い夏休みを過ごしていただきた

と思います。夏期保育にまたお子さまたちの元氣な姿に会えることを楽しみにしております。

園長 影山 幸江

「個人面談、ありがとうございました」

7月8日から個人面談をいたしました。降園時には毎日、担任がその日のお子さまの様子をお知らせしながらお返していましたが、個人面談を行ったことで保護者の皆さまの思いも伺うことができ、各担任にとりましてより多岐にわたる面談となりました。その中で、園に対してのご質問や要望等もありましたので、下記のとおり園としての考えをお伝えいたします。

- * **行事等に関してもう少し早めにお知らせが欲しい** →これまででも早めにお知らせを出したことはあったのですが、早すぎて当日に忘れ物があったり、内容をお忘れになったりしてしまう方も多くおられたため、現在は10日から1週間前にお知らせするようにしています。ですが、今後は、内容によってはできるだけ早めにお知らせをするよう心掛けていきます。なお、年間行事予定表や毎月のお便りでも予め行事につきまちはお知らせしていますので、そちらをご参考にしていただけると助かります。
- * **給食のおかわりを出してほしい** →各クラスの給食の様子を確認しましたところ、お子さまによって食量に差があるようです。そのため、2学期以降の給食につきましては、必要栄養量との関連もありますので、栄養士と相談し可能な場合はおかわりができるようにする予定です。
- * **職員の顔と名前が一致しない** →個人情報保護のため、職員に対しては名前がわかるだけ上げられないようにしております。ですが、確かに今年度入園された方の中にはそのような方も多くおられると思いますので、もし名前が分からない職員がいましたら遠慮なく担任やその他の職員にお尋ねください。私たちも保護者の皆さまに名前を知っていただき、お子さまのことについてたくさんお話しをしていきたいと考えております。
- * **親子遠足をしてほしい** →これまででもそういったご要望がございましたが、それぞれのご家庭の事情を考えますと、保護者の方の中には負担となってしまう方も多くいらっしゃるようですので、親子遠足は行っておりません。しかし、園の中でお子さまと保護者の皆さまとのふれあいの機会は作りだしたいという思いもありますので、毎年、「くさばなファミリーの日」という行事を行っております。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、中止となってしまいましたが、終息して再び開催できるようお願いしております。
- * **毎月の引き落とし明細書の内訳をもう少し詳しくしてほしい** →れんらくアプリで毎月の引き落としの明細書を確認していただいておりますが、『その他』の項目の中にまとめて入力されているものもあり、詳しい内訳が分からないのご指摘をいただきました。今後、できるだけ細かくお知らせができるようシステムを変更する予定でいます。
- * **お迎えの際、保護者の方同士距離が気になるのですが…** →自粛期間が長かったこともあり、保護者の皆さまもいろいろとお話ししたいことがおありかと思えます。お気持ちはよくわかるのですが、現状では、感染者が増えたり、終息のめどが立っていかたりとまだまだ油断はできない状況でありますので、引き続きソーシャルディスタンスを心がけてください。また、お子さまを引き取られた後は、できるだけ速やかにお帰りができますようお願いいたします（お子さまの安全確保のためにも）。万が一園の関係者の中で感染者が出てしまいますと、休園の措置を取る可能性もございます。お子さまが楽しく幼稚園で過ごせるように皆さまのご協力をお願いいたします。なお、現段階におきましては、夏期保育以降も引き続き登降園時のスタイルは、現状と同様にいたしますので、併せてご協力をお願いいたします。

今後もお子さまや保護者の皆さまが安心して幼稚園で過ごせるよう、必要な改善は行っていきたくと考えておりますので、ご不明な点等がございましたらお気軽に園までお問い合わせください。

私のおすすめの絵本
(この欄は教職員が交代で担当します)

「うちのおぼけ」 世界文化社

文：谷口國博 絵：村上康博

「そーっとのぞくと、そーっとのぞくと…」という印象に残るフレーズ。歌を歌いながら読む絵本と、おぼけという言葉にハラハラドキドキしながらも気になるようで、お子様たちにも大人気です。毎回「おぼけ読んで！」とリクエストがあり、一度読むと歌が頭の残り、ついつい口ずさんでみたくります。子どもにとって「おぼけ」は「怖い」というイメージですが、読む前は怖がる子も読んでみたら「なーんだ！」と笑ってしまうような一冊で私も大好きな絵本です。

ぜひお子様と歌を歌いながら読んでみてはいかがでしょうか。
水村 紗矢香

